

学会に行ってみた話

文責：HR

こんにちは。農学部・地域環境工学科（以下、「地環」とも）のN回生HRです。
これは、私が昨年夏休みに飛び入り参加した学会に関するレポートです。参考にしてください。

1. きっかけ

地域環境工学科では、たまに大林組などのゼネコン系企業の見学会案内が来る。それに応募し、東京に行くことになった。

するとたまたま、東京農工大学で「農業農村工学会」という地環に関係の深い学会が開催されることを知った。（全3日間）。東京入りのタイミングと合致したこともあるが、躁状態だった私は、何でも参加してやるという気持ちになっていた。

一日目と二日目に参加してみることにした。

2. 参加するには

昨年私が参加したときはたまたま農業農村工学会90周年だったので学部生は無料で参加できた。ただ、例年は学生の場合5000円（早めに参加申し込みをすると3000円）くらいの参加料を集めるようだ。

参加登録を現地で済ませると、冊子とUSBがもらえた。USBには当日の発表が用意したスライドが入っている。無料でわりと容量の大きいUSBがもらえて小躍りした。わーい。

3. 学会参加者の構成

学会には、教員だけではなく、いろんな人が集まっている。

そもそも農業農村工学という学問は、大学関係者だけではなく国の研究所（農研機構とか）や各企業の研究者も参加する裾野の広い学問で、当の学会も発表者はいろんな出自の人々であった。もちろん、大学院生などの若手もいる。

4. 要するに、行って何が良かったか？

研究室選別に役に立つ。

大学院生たちなどの、若手の発表を聞いたことが大きかった。あらゆる方向の研究¹に臨む沢山の大学院生の発表は、自分の研究室配属の方向性を定めるのに十分参考になった。

自分の所属分野について、一足飛びに最先端の動向を知ることができる。

また、大きな学会のトレンドもわかる。その時に開かれた大講演会の内容はICTを生かした農業のスマート化などについてだった。Pythonやってみるか、と真面目に検討しだしたのも、この学会の講演会がきっかけだった。

先生・先輩と仲良くなるきっかけになる。

学会後の懇親会に参加すると、普段授業でしか会わなかった先生たちと、お酒を媒介しながらお話することができる。楽しい。酒があるから仮に話す相手がなくても寂しくないし、気持ちが大きくなっているので知らない人にガンガン話しかけられる。そこらへんの一人である院生を捕まえて話を聞いたりした。

おまけに学生枠参加なので、懇親会費も安い。

この場に来る人は名刺を持っていることも多いので、自分用に作って持っていくと、今後の関係づくりもできてよい。名刺は作っておこう。

5. おわりに

今回は自分の所属学科に関連した学会の話だったが、皆さんそれぞれの学科ごとにも、中心的な学会があるかもしれない。教員が所属している学会をネットで調べることもできる。

¹ 農業農村工学分野には参加者の出自もさることながら、分野の研究範囲も幅広いことが特徴。農村計画から農業機械・農業土木等々…。研究室配属の時はこの多様さが頭を悩ませる元にもなる。